

所 属 有限会社 漁進水産
氏 名 まつやま しんたろう
松山 進太郎 (27 歳)
船 名 だいろくじゅうごりょうしんまる 第六十五漁進丸 19 トン
漁業種類 小型いか釣り



～イカ墨で染まっているのはイカしている証～

父がいか釣り漁師をしている姿を見て、高校を出てすぐに漁師としてのキャリアを歩み始めた松山さん。そして、今や若くしていか釣り漁船の船長を立派に務める。そんな彼はとにかく負けず嫌いで、「どんな時でも、他の船よりも多く水揚げしたい。ただ、その一言に尽きる」と口癖のようにつぶやく。

近年はいかの不漁で漁場を探すのが大変。漁港から近くではサツパリ獲れず、港から 7 時間近く船を走らせて遠い漁場まで行くという。そんな中でも、大漁にいかを獲る松山さん。そんな時は、船を見れば一目瞭然。イカ墨で船が汚れている時ほど、大漁だそうだ。いかは釣り上げる時に墨を吐き出すので、漁の最中は船も船員さんも墨だらけ。大漁に獲れた日は、洗う暇が無いほど大忙し。この墨で塗装されているのが名誉の印かな？

たまに無茶をして波が 3 m～4 m 位あるような状況でも漁を行ったこともあるのだとか。これも負けず嫌い故の武勇伝であり、多くの人に語られているのかも?? くれぐれも安全に気をつけて操業して欲しいばかりです。

～鳥取はもう恋しくない???～

1 ヶ月で 26 日漁に出ることもあり、かなり大変そうだが、船に乗って、全国各地に行くことがなによりも楽しいと言う。夏場は涼しい北海道に行こうかなとか、冬場は少しでも暖かい長崎に行きたいなとか、自分で行きたい場所を決めて自由に全国の海を渡っている。この仕事を始めた頃は、とにかく鳥取が恋しかったそう。今では全くその感情は生まれなくなったようで、今日も自由気ままに全国各地へ船を走らせる。

(文責：永島 宗弥)